

流行する性感染症に対する効果的な介入と評価

研究分担者 今村 顕史（東京都立駒込病院）

研究協力者 要 友紀子、畑野とまと、宮階 真紀、宮田りりい（SWASH）

佐野 貴子（神奈川県衛生研究所）

土屋 菜歩（東北大学 東北メディカル・メガバンク機構）

堅多 敦子（東京都立駒込病院）

研究要旨

我が国の HIV/AIDS では、その感染経路の多くを性行為による感染が占めている。一方で、近年、国内では、性感染症が増加しており、特に梅毒については、女性は 20 歳代、男性は 20-40 歳代を中心に急増しており、大きな問題となっている。そのため、特に性感染症の正しい知識や情報が届いていない若年層や、性感染症り患のハイリスク層ではあるが、情報にスムーズにアクセスできる環境にない女性のセックスワーカー（SW）に対して、予防行動をとり、検査を受検するような意識を醸成していくことが重要である。従って、このような対象者への受検勧奨と予防啓発を行うことが、喫緊の課題となっている。しかし、現代の性産業は SNS 等の普及とともに多様化し、複数の店舗に従事する女性、他職を持ちながら性産業と関わる女性など、従来の受検勧奨が届かない対象者が増加している。本分担研究では、性感染症に関する啓発を通じて、若年層や女性の SW に対して、性感染症の不安解消、情報提供、注意喚起・受検勧奨を進めるとともに、HIV を含めた性感染症に関する情報を効果的に伝達できる手法、現代型の啓発プログラム開発を検討する。

今年度、性産業従事者への支援団体と協力し、影響力のある複数のインフルエンサーが出演する啓発用動画コンテンツを制作し、SNS や SW 向けポータルサイトに掲載し幅広く発信した。インフルエンサーからも情報を発信してもらうなど、啓発のためのネットワーク構築を進めている。また、若者向けに梅毒啓発ページを作成し、「HIV 検査・相談マップ」のサイトに、梅毒をわかりやすく解説した梅毒啓発動画とともに掲載した。

今後、知識認知や受検動機につながる現代型の啓発プログラム開発を検討し、その効果については、SNS や関連サイトのアクセス評価、性産業従事者へのアンケート調査、疫学調査等の複数の手法での評価を行っていく。

A. 研究目的

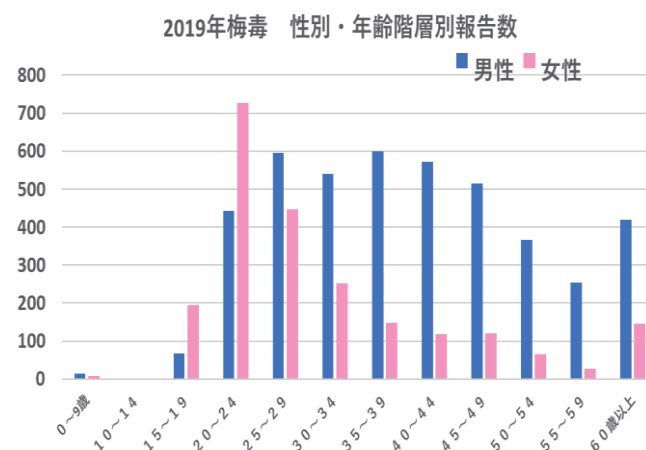
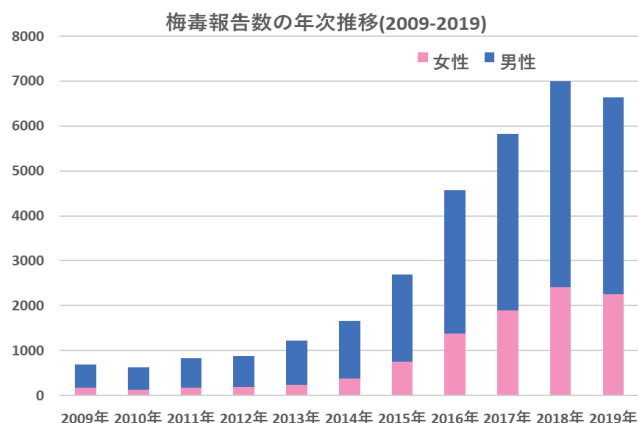
近年、国内では梅毒の増加が続いており、特に若年層および性産業に従事する女性の増加が問題となっている。現代の性産業は SNS の普及とともに多様化してきていることで、性感染症のハイリスク層であるが、正しい知識や情報にスミ

ズにアクセスできる環境にない性産業の従事者および性感染症の正しい知識や情報が届いていない若年層への効果的な受検勧奨と予防啓発が喫緊の課題である。

本研究では、性感染症に関する啓発を通じて、若年層や女性の SW に対して、性感染症の不安

解消、情報提供、注意喚起・受検勧奨を進めるとともに、HIVを含めた性感染症に関する情報を効果的に伝達できる手法を検討する。

そして、今後、HIV/AIDSに関する情報や、様々な性感染症の発生動向等を、迅速かつ適切に伝達できる手法を確立し、各分担研究で得られる情報をもとに、梅毒等の性感染症に対する効果的な啓発プログラム開発を目指す



B. 研究方法

1. SW 向けの啓発

SW 向けの啓発に当たっては、支援団体と連携して対応する。

性産業従事者に影響力のある複数のインフルエンサーと連携し、啓発のためのネットワーク構築を進める。さらに、ホームページ、動画、複数の SNS などを利用した、知識認知や受検動機づけにつながる現代型の啓発プログラム開発を行う。

①啓発動画コンテンツ作成・配信

SW 業界の各分野におけるインフルエンサーと進行役との対談形式で、セクシャルヘルスにかかる知識・情報等について、WEB 収録し、Youtube、SW 向けのポータルサイト等に配信する。

②梅毒啓発動画の配信

梅毒について、わかりやすく自分事として認識してもらえる内容の動画を制作。

SNS 用約 1 分 ホームページ用約 8 分で、全体をセックスワーカー 7 人への個別インタビューで構成する。最後に各出演者から、現役 SW に向けて、性感染症予防のためのメッセージを発信し、それらを SW 向けのポータルサイト等に配信する。

2. 若者向けの啓発

若者世代に対して、流行している梅毒について正しい知識と意識の醸成をはかり、検査受検勧奨につなげるよう啓発資料を作成する。

①梅毒特設ページの作成

本研究の研究代表者による「HIV 検査体制の改善と効果的な受検勧奨のための研究」で構築した「HIV 検査・相談マップ」のサイトに梅毒の特設ページを作成する。

②梅毒啓発動画の配信

前後編各約 5 分の動画で、若い世代に親和性の高い「You Tuber」スタイルを模したアニメーション及び実写の医師（本研究代表者）との対話スタイルで視聴者に情報提供・注意喚起・受検勧奨を発信し、「HIV 検査・相談マップ」のサイトに掲載する。

(倫理面への配慮)

本研究においては、個人情報等、倫理に関わる研究内容はなし。

C. 研究結果

1. SW 向けの啓発

①啓発動画コンテンツ作成・配信

「セックスワークを安全に」

SW 業界のインフルエンサーとの対談形式で、セックスワークを安全に行うためのセクシャルヘルスにかかる知識やアドバイスについて WEB 収録し、Youtube や SW 向けのポータルサイト（赤い傘）に掲載し、配信した。

また、啓発のために出演者が U=U をデザインしたおそろいの T シャツを着用した。今後、イベント等で活用する予定である。

②梅毒啓発動画の配信

各分野の SW に影響力のある 7 人への梅毒、性感染症予防、性感染症予防等のインタビューと、最後出演者から、現役 SW に対しての性感染症予防のためのメッセージで構成した。

- ・SW 向けのポータルサイト（赤い傘）に掲載し、配信した。

[赤い傘 \(akaikasa.net\)](http://akaikasa.net)

- ・出演者には SW 業界のインフルエンサーとして、今後現役 SW に対して各種の情報発信をしてもらい、啓発のためのネットワーク構築を進める。

2. 若者向けの啓発

①梅毒特設ページの作成

本研究の研究代表者による「HIV 検査体制の改善と効果的な受検勧奨のための研究」で構築した「HIV 検査・相談マップ」のサイトに梅毒の特設ページを作成した。

「梅毒って、なに？」

- ・若者世代が梅毒について気になる
「今、増えている？、梅毒ってどんな病気？
どんな症状がでるの？ 治せるの？
早めの検査が大切。予防できるの？
梅毒 Q&A」の項目でイラストを多く取り入れ、若者世代に対して、簡潔でわかりやすい内容で作成した。

- ・パソコンとスマートフォンとにアクセスできるように設定した。



[梅毒って、なに? \(hivkensa.com\)](http://hivkensa.com)

②梅毒啓発動画

「気になる梅毒、ドクターに聞いてみた。」

前編「今、梅毒が流行中？」

[気になる梅毒！ドクターに聞いてみた #1](#)

[「今、梅毒が流行中？」 - YouTube](#)

後編「もしかして？と思ったら」

[気になる梅毒！ドクターに聞いてみた #2](#)

[「もしかして？と思ったら」 - YouTube](#)

- ・若い世代に親和性の高い「YouTuber」スタイルを模したアニメーションで梅毒に関する話題を「メディチューバー」が発信。実写の医師（本研究代表者）との対話形式で、若者世代の疑問・不安を医師に問いかけ、医師とメディチューバーで受け答えをする構成とした。
- ・「HIV 検査・相談マップ」に掲載した。

D. 考察

近年、国内では、性感染症が増加しており、特に梅毒については、女性は 20 歳代、男性は 20-40 歳代を中心に急増しており、大きな問題となっている。

しかし、特に、性感染症の正しい知識や情報が届いていない若者世代や、性感染症り患のハイリスク層ではあるが、情報にスムーズにアクセスできる環境にない女性の SW に対して、予防行動を取り、検査を受検するような意識を醸成してい

くことが重要である。

本研究では、性感染症に関する啓発を通じて、若年層や女性の SW に対して、性感染症の不安解消、情報提供、注意喚起・受検勧奨を進めるとともに、HIV を含めた性感染症に関する情報を効果的に伝達できる手法を検討する。

今年度、性産業従事者への支援団体と協力し、影響力のある複数のインフルエンサーが出演する啓発用動画コンテンツを制作し、SNS や SW 向けポータルサイトに掲載し、幅広く発信する。インフルエンサーからも情報を発信してもらうなど、啓発のためのネットワーク構築を進めている。また、若者向けに梅毒啓発ページを作成し、「HIV 検査・相談マップ」のサイトに梅毒をわかりやすく解説した啓発動画とともに掲載した。

今後、知識認知や受検動機につながる現代型の啓発プログラム開発を検討し、その効果については、SNS や関連サイトのアクセス評価、性産業従事者へのアンケート調査、疫学調査等の複数の手法での評価を行っていく。

E. 結論

本研究では、正しい知識・情報や受検勧奨について、十分に届いていなかった若年層、女性の SW 等への啓発方法を検討し、多くの人が認知し、理解しやすい多様な対策を講じた。課題となる対象者には、ひとつの方法だけでは HIV・性感染症の受検勧奨が完結することはない。

今後、知識認知や受検動機付けにつながる現代型の啓発プログラム開発を検討し、その効果については、SNS や関連サイトのアクセス評価、性産業従事者へのアンケート調査、疫学調査等の複数の手法での評価を行っていく。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Yuri Echigoya, Takayuki Yamaguchi, Akifumi Imamura, Hiroshi Nishiura. Estimating the syphilis incidence and diagnosis rate in Japan: a mathematical modelling study. Sex Transm Infect. 2020 Nov;96(7):516-520.
- 2) Kazuki Shimizu, Hiroshi Nishiura, Akifumi Imamura. Investigation of the Proportion of Diagnosed People Living with HIV/AIDS among Foreign Residents in Japan. J. Clin. Med. 2019, 8(6). 804.
- 3) 今村顕史 . HIV/AIDS の医療体制とその問題点. 呼吸器内科 2019. 36(5): 490-493.
- 4) 笠松亜由、福島一彰、今村顕史. 梅毒 感染症専門医の視点より. 腎と透析 2019. 86(1): 399-402.
- 5) 田中勝、今村顕史. HIV と悪性腫瘍. 新薬と臨床 2019. 31(1): 121-124.
- 6) 福島一彰、今村顕史. 現代の梅毒 2018. モダンメディア 2018.64(8): 261-270.
- 7) 今村顕史. HIV 感染症検査のアップデート～日本における検査態勢の現状と課題～. HIV 感染症と AIDS の治療 2018. 9(2): 19-24.
- 8) 関谷綾子、福島一彰、田中勝、矢嶋敬史郎、八木田健司、味澤篤、今村顕史. インド渡航後にサイクロスポーラによる腸炎、胆管症を認めた HIV 感染者の 1 例. 感染症誌 2018. 92: 371～375.
- 9) 池内和彦、福島一彰、田中勝、矢嶋敬史郎、関谷紀貴、関谷綾子、柳澤如樹、味澤篤、今村顕史. 梅毒に対するアモキシリン 1,500mg 内服治療の臨床的効果. 感染症誌 2018;92:358-64.
- 10) 嶋根卓也、今村顕史、池田和子、山本政弘、辻麻理子、長与由紀子、松本俊彦. 薬物使用経験のある HIV 陽性者において危険ドラッグ使用が服薬アドヒアランスに与える影響. 日本エイズ学会誌 2018. 20: 32-40.

- 11) Fukushima K, Yanagisawa N, Imaoka K, Kimura M, Imamura A. Rat-bite fever due to *Streptobacillus notomys* isolated from a human specimen. *J Infect Chemother* 2018. 24: 302-304.

2.学会発表

- 1) 今村顕史. MSM における A 型肝炎の流行への対策と効果についての検討 日本エイズ学会、2019 年 11 月 熊本
- 2) 今村顕史. A 型肝炎の流行におけるハイリスク層への効果的な啓発方法の検討. 日本エイズ学会、2018 年 11 月、大阪

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
2. 実用新案登録
3. その他
なし